

平成二十五年
いのち

生命の言葉

四月

春風しゅんぷうを以もつつて人に接せつし

秋霜しゅうそうを以もつつて自ら肅つしむ

佐藤一斎

裏面もご覧ください。

四月
生命の言葉

他人には春風のもつ暖かさで接し、自分には秋の霜のような冷厳さで反省して、自分の至らぬところを知る、という意味。

出典『言志四録』

佐藤一斎 (さとういつさい)

一七七二〜一八五九年。江戸時代の儒者。江戸浜町に生まれ、岩村藩に仕えた。昌平坂学問所に入門し、後に儒学の大成者として認められ、朱子学のみならず陽明学にも長けていたことから学問仲間から「陽朱陰王」と呼ばれて崇められた。

穀雨の候ご参拝の皆さまの願い事はきつと神さまに届きます

東京都神社庁

<http://www.tokyo-jinjacho.or.jp/>



遷宮で結ぶ人の輪 心の輪
第六十二回神宮式年遷宮